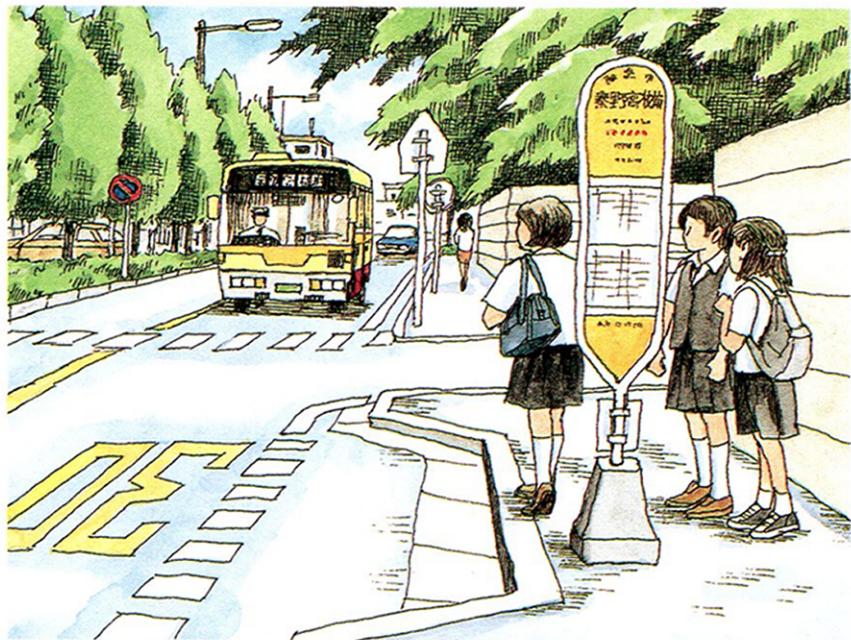


広陵



第30号 2001.7.20

神奈川県立秦野高等学校同窓会会報



ゆかた 浴衣を着て 軽やかに踊る 体育祭

同窓会会報第30号目次

表紙 題字 宮本 信義(中5回)

スケッチ 横溝 英一(中20回)

総会のご案内 1

平成12年度事業報告・決算報告 2

平成13年度事業計画案・予算案 3

ごあいさつ……………同窓会長代行・柳川 一朗 4

学校長・井上隆之 4

退任にあたって……………前校長・安藤 彬 5

小泉前会長のご功績をしのぶ……………梅原福司(中12回) 5

支部だより…………… 6

秦中・秦高在職中の想い出…………… 8

秦中・秦高に想う…………… 10

寄稿・宮川政次先生を偲ぶ…………… 11

母校からこんにちは(部活動報告)…………… 12

母校進学カルテ…………… 14

同期会だより…………… 16

特別寄稿・少国民日の秦中時代…………… 17

母校職員異動・物故者・連絡等…………… 18

平成13年度 秦野高校同窓会 ～ 総会のご案内 ～

■ 日 時：8月18日(土)
■ 場 所：フォーラム246 (アマダビル内)
伊勢原市石田350
TEL. 0463-96-3711

総会日程

P.M1:30 受付
2:00 総会

- 平成12年度事業報告及び決算報告
- 平成13年度事業計画及び予算審議
- 会長選任
- その他

総会へのお誘い

同窓会会長代行

柳川 一朗

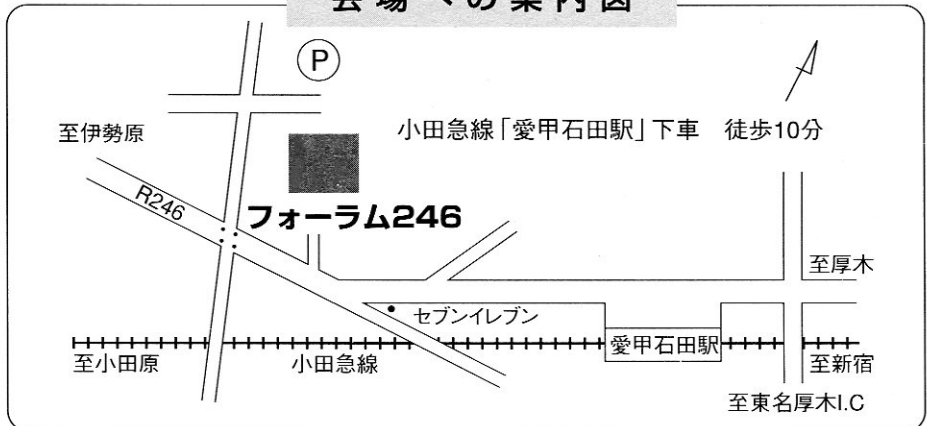
平成13年度総会はフォーラム246(アマダビル内)で伊勢原支部の皆様にご案内していただきました。会員各位の多数のご参加をお願いします。



* 総会終了後 懇親会
会費4,000円 (当日納入)



会場への案内図



平成12年度決算報告書

◎歳入の部

項目	12年度予算額	12年度決算額	増 減
前期より繰越	1,013,710	1,013,710	0
終身会費	4,600,000	5,890,000	1,290,000
受取利息	50,000	23,578	△26,422
合 計	5,663,710	6,927,288	1,263,578

◎歳出の部

項目	12年度予算額	12年度決算額	増 減
会議費	410,000	279,079	△130,921
総会費	250,000	250,000	0
役員会議費	160,000	29,079	△130,921
事業費	4,320,000	4,176,463	△143,537
支部育成費	240,000	240,000	0
在校生活動 振興費	700,000	700,000	0
吹奏楽部 助成金	100,000	100,000	0
造園維持費	80,000	80,000	0
慶弔費	100,000	113,350	13,350
会報発行費	2,850,000	2,843,113	△6,887
資料整理費	250,000	100,000	△150,000
事務費	380,000	239,892	△140,108
事務局費	300,000	202,420	△97,580
通信費	50,000	29,710	△20,290
印刷費	30,000	7,762	△22,238
予備費	553,710	0	△553,710
後期へ繰越		2,231,854	2,231,854
合 計	5,663,710	6,927,288	1,263,578

同窓会基金 43,472,213

内 訳・同窓会館積立金 16,972,213

・同窓会積立金 26,500,000

平成12年度事業報告

- 役員会議 5月27日(土)
11月14日(火)
2月17日(土)
- 総会(秦野商工会議所)
8月19日(土)
- 幹事会 6月17日(土)
- 六校連絡協議会(伊勢原市)
7月27日(土)
- 造園維持管理
- 会報「広陵」29号発行(編集委員会)
7月20日(土)
- 同窓会資料室整理(次年度継続)
- 部活動激励事業
県大会 陸上部、女子テニス部、
水泳部、ソフトテニス部
関東大会 陸上部、山岳部、
かるた部
全国大会 かるた部、陸上部、
水泳部
- 吹奏楽部助成
- マラソン大会賞品贈呈

平成12年度の会計、経理について関係帳簿及び書類を審査した結果、正確且つ公正であったことを認めます。

平成13年6月9日

監事 佐草政勝
" 加藤武雄

以上の通り報告します。

平成13年8月18日

会長代行 柳川一朗
会 計 畑野公保
" 榎本節子

平成13年度予算(案)

◎歳入の部

項目	13年度予算額	12年度予算額	増減
前期より繰越	2,231,854	1,013,710	1,218,144
終身会費	4,600,000	4,600,000	0
受取利息	30,000	50,000	△20,000
合計	6,861,854	5,663,710	1,198,144

◎歳出の部

項目	13年度予算額	12年度予算額	増減
会議費	410,000	410,000	0
総会費	250,000	250,000	0
役員会議費	160,000	160,000	0
事業費	4,220,000	4,320,000	△100,000
支部育成費	240,000	240,000	0
在校生活動振興費	700,000	700,000	0
吹奏楽部助成金	100,000	100,000	0
造園維持費	80,000	80,000	0
慶弔費	100,000	100,000	0
会報発行費	2,850,000	2,850,000	0
資料整理費	150,000	250,000	△100,000
事務費	380,000	380,000	0
事務局費	300,000	300,000	0
通信費	50,000	50,000	0
印刷費	30,000	30,000	0
予備費	1,851,854	553,710	1,298,144
合計	6,861,854	5,663,710	1,198,144

平成13年度事業計画(案)

- 1、総会、幹事会、役員会の開催
- 2、会報「広陵」第30号の発行
- 3、会員名簿発行
- 4、同窓会関係資料の整理
- 5、在校生活動支援と交流
- 6、支部育成と連携
- 7、PTAとの交流
- 8、六校連絡協議会
- 9、会費納入の促進
- 10、その他



県立秦野高校同窓会本部役員名簿

- 【会長代行】 柳川一朗 (秦野)
- 【副会長】 深田源次 (東京) / 金子尚 (茅ヶ崎・藤沢) / 松永幸夫 (平塚)
 喜多実 (伊勢原) / 柳川一朗 (秦野) / 廣澤富正 (小田原)
 鈴木正 (南足柄)
- 【支部長】 梅原福司 (秦野) / 柳田敏雄 (小田原) / 賀川義光 (伊勢原)
 金子尚 (茅ヶ崎・藤沢) / 加藤金次 (平塚) / 深田源次 (東京)
 梅本玄正 (南足柄)
- 【理事】 矢作典西 (伊勢原) / 榎本圭治 (秦野) / 渋谷富治夫 (秦野)
 畑野公保 (伊勢原) / 榎本節子 (秦野)

同窓会会長代行に 就任して

同窓会会長代行 柳川 一朗



このたび第十二代会長小泉功氏が平成十三年一月十五日に急逝されました。ここに謹んでご冥福をお祈り致します。

同年二月十五日秦高同窓会役員会が招集され、今後の同窓会運営について、まず第一に会長死去に伴う会長代行の選出の件で、副会長（七名）の互選で全員一致で秦野支部より選出の不肖柳川一朗（高一回）が指名され、前任会長の残任期間（平成十四年三月三十一日まで）会長代行とい

就任して

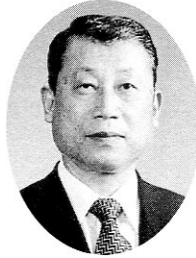
う重い名誉ある職名を頂きました。草創一〇年創立七十年の歴史ある伝統と質実剛健、文武両道の校風そして県下でも優秀な進学校としてその名声が高い秦高の同窓会の会長代行に指名された意義に深く身の引き締まる思いでいっぱいです。

今年三月一日に高53回の卒業式に出席し、新たに同窓会に入会される三百九十三名の皆さんに、先ず卒業を祝福し、今や二万名を超えた卒業生が日本全国の各地、各分野で活躍している様子を話し、この厳しい社会での門出を激励してまいりました。同窓会の今後の運営については、前会長の遺志を継ぎ、

同窓会が社会生活の中で存在感があるようにしたいと思つていきます。課題としては、同窓会運営の基幹をなす幹事会の活性化問題、同窓会林の問題、同窓会館積立金から同窓会基金への名称変更それに伴

躍進する母校

学校長 井上 隆之



う管理運営方法等、その他PTAとの交流、在校生との絆を深め良き先輩である様努めてまいります。

最後に皆様のご発展、ご健康を祈念してご挨拶と致します。

校長同様にこ鞭撻くださいます。同様よろしくお願い致します。

今年、明治十九年の草創より一五年目、大正十五年広畑が丘の現在地に開校してより七五年目になり、卒業生も昭和四年の第一回生から平成十三年三月末現在で二〇、八六二人を数えました。

現在、学校は二九クラス、生徒数は、一、一六〇人と全日制普通科では、県下最大規模となっております。高校改革

の流れの中で、本校でも開かれた学校づくり、特色づくりが進められております。その一環として本年度は、本校で初めて推薦入学を実施し、定員の十五%の五三名が入学いたしました。県立学校で進学率が高い学校の早期導入例として大変注目されています。また、来年度は、学校週五日制の実施を踏まえて二学期制の導入を予定しています。

生徒には、活躍される先輩諸氏に続ける様、「質実剛健」を建学の精神として「文武両道」の校風を大切にしながら、向学心をさらに喚起し、磨きをかけ、心豊かな人間として社会に貢献出切る人材の育成を目指したいと願つております。学校あげて身の引き締まる思いで本年度のスタートを切ったところであります。今後共、変わらぬご支援ご協力をお願い致します。

退任にあたって

前校長 安藤 彬



秦野高校在学中は、同窓会の皆さまから温かいご理解と心強いご協力を賜りましたこと、ここに厚くお礼申し上げます。

同窓会の役員会や総会、職域ごとの同窓会等にお招きを受け出席いたしました。

それぞれの会では、秦高の現状として、生徒の男女比は

ほぼ半々である事、十四年度から授業時間の確保を主眼として三学期制から二学期制以降する事、十三年度入試か

ら推薦入試を導入する事、大
学への進学実績、そして部活
動等の成績についてご説明申
上げました。その後の懇談
の中で、学校林の下草刈りや
マラソン大会等の思い出や、
母校への熱い思い等をお聞き
し、それぞれ皆さんが在学中
に真摯に学校生活に取り組み
れ、現在の素晴らしい校風が
築かれたのだと感得いたしま
した。

さて、小泉会長さんが一月
にお亡くなりになった事、誠に
悲しく残念に思っています。

会長さんは、体育祭や文化
祭等の学校行事等にご来校さ
れ、生徒達を慈父のまな差し
でご覧になりながら激励して

いただいたお姿が昨日のよう
に思い出されます。本誌上を
お借りして、あらためてご冥
福をお祈り申し上げます。

最後に、私にとって秦高は、
特に縁の深い学校であり、素
晴らしい生徒に囲まれ、同窓
会やPTAの皆さんに支えら
れ充実した二年間を過ごさせ
ていただいたのは大変幸せな
事と感謝申し上げます。

秦野高校と同窓会がますます
す発展されます事を祈念申し
上げ私のあいさつといたしま
す。

小泉前会長の ご功績をしのぶ

梅原福司(中12回)



役員会が開催されたのが昨年
十一月十四日。その後間もな
く心臓血管手術のため、国立
神奈川病院に入院、僅か五十
日間の入院で逝去なされまし
た。誠に痛惜の極みでありま
す。去る一月四日に個室で会

り二期七年間にわたり、その
職責を精力的に果たされまし
た。特に創立七十周年記念事
業の遂行。学校と密接な連携
を図りながら同窓会組織の
改革。弘法山公園内の前田夕
暮碑の解説板の設置などの功
績は誠に顕著です。

長様にお会いした際「あとを
頼む」と言われたことを忘れ
ることが出来ません。

また地域においては獣医と
して秦野市の畜産業界の振興
と自らも入院されるまで、奥
様とともに、二十頭の牛の飼
育を四十数年間専念されまし
た。現在でも二棟の大きな牛
舎が、そのままであり、会長
様の傍が残っています。

第十二代県立秦野高等学校
同窓会長小泉功様が逝去なさ
れて、半年がたちました。

このたびは秦野市議会議員と
して三期十二年間のご功労な
どにより、去る三月に「勲六
等単光旭日章」の叙勲の榮に
浴されました。

ふりかえりますと、最後の

小泉前会長様は平成五年よ

前会長の小泉功様のご功績
を偲び謹んで御冥福をお祈り
申し上げます。

支部だより

秦野支部

石塚秀雄(中10回)

先輩各位の熱意と御尽力により、秦野支部が結成されてより二十五年、歩み振り返り今後の活動の指針とするため、記念事業を計画することを、昨年の支部だよりに、梅原支部長がお知らせいたしました。本年はこの事業を進めるため五月十一日の地区長会で実行委員会を結成することになりました。委員は各地区より五月末日までに選出し、事務局に報告、六月下旬には第一回の実行委員会を開催、事業を具体化するための協議をする運びとなりました。

また例年実施している視察研修会を六月三十日に、社会

教育施設、文化財施設の見学と会員相互の親睦を深めるため「大洗町の日の出を見ずして日の出を語る資格はない」

版画家棟方志功が述べている海の町茨城県の大洗町小川町を訪ね①幕末と明治の博物館

②海洋博物館③マリントワー

④イエローポート⑤百里基地

特攻記念館を見学することにしました。支部役員の御尽力と会員皆様の御参加を心からお願いたします。

伊勢原支部

賀川義光(高6回)

支部の皆さん本年の同窓会総会は、会報の御案内のように伊勢原支部の当番でフォーラム246にて行います。

例年当番支部の役員の協力を得て支部会員の参加者を募り総会を盛り上げて来ています。支部の皆様もこの経緯を

汲んで頂き多数の参加をお願いします。

今日の情報通信社会の中にあつて暫しの時間を広畑ヶ丘の想い出を語り合う絶好の機会でもあると思います。

支部活動も例年と変わりなく特記する内容はありません。

今年も去る4月21日(土)役員会を開催し、総会準備の打合せ等活発な意見交換が行われ又フレッシュな感覚を持った若い役員が中心になり和気あい

あいの中で終了出来たこと本当に心強く思っています。役員の皆様には、多忙の中無報酬とは云え御協力頂き御苦労様です。本部からの育成費があるとは云え、足代程度でこれからの支部活動に限界を感じる今日この頃です。

でも母校のことです皆様と共に頑張ってください。

平塚支部

加藤金次(中19回)

支部の組織機構の再編により、活動の年中行事化、支部活動の発展拡大を図り、各地区に世話人を選任し、地域密着型の支部機構が発足しました。これに基づき昨年六月支部役員及び地区正副世話人会を開催し具体案の作成にかかりましたが、その間私達の熱心な指導者副会長・前支部長

山川彰蔵さんが逝去され一時行動がにぶりましたが、後任に松永幸夫さんを迎え、大きく飛躍することを期待して居ります。

昨年提案がありました戦時戦後の思い出をたどって同窓会林の現況を視察し、更に宮ヶ瀬ダム湖見学と親睦をとりつつ楽しい行事にしたいと計画致しました。初めての事な

ので参加者の確保と資金の調達を検討致して居りますが是非本年は実現させたいと考えて居ります。

追伸 私儀本年当初より体調を崩し入退院を繰返して居りますので、早急に辞退申上げ人事交替を行いより強力な活動できますよう各関係者にお願ひ申し上げます。

東京支部

深田源次(中21回)

東京支部の特色から書きますと、今から二十年以上前、東京や京浜地区に在住したり通勤していた中20、21(高1、2)の卒業生など多土のグル

ープが盛んに新宿辺りで交歓の場を設けていたところ、毎年の本部同窓会出席者の有志から東京支部を作ろうとの動きがあつて、これが合体し、間もなく須山喜一氏(中7回)

東大卒、(当時サンウエーブ工業社長)を会長(支部長)に招いて東京支部(在京広畑会)を創立し、深田法律事務所(〇三―三三五六―二三三)を事務局として、ほぼ二年に一回総会、懇親会を開催して来ました。そして、長年の間会長のほか次の西山会長(中14回)などが本部役員会への出席、記念事業寄附等で母校のため相応の活動をして来しました。この間年代の推移により会員の變動もあり、平成十二年七月の総会から深田が会長に、毎年ご苦勞頂いている二階堂博史氏(高1回)、熊沢弘雄氏(中19回)に副会長をお願いし、ほか女性を含め多数の有志に幹事をお願いしている。

小田原支部

柳田敏雄(中12回)

多様化する今日、永い間同窓会発展のために献身的努力をされた故小泉会長に心から弔意を表すると同時に、引続き秦野支部より柳川副会長の代行、大変ご多忙な人だけに本当にご苦勞さまでです。聞く所によると、母校は全日制普通科では一六〇名と県下最大の規模であり、また今年度から推薦入学を実施している。今後は他地区からの入学も少しずつ増え、私共の支部にも希望がわいてきます。

在南足柄市の支部長の水島範様(中5回)のご尊父であられたことを御本人からお話しされ、誠に奇遇で喜びにたえません。それも東の間今年三月二十七日永眠され誠に残念です。心から哀悼の意を表します。又杉山茂夫(長風)先生とのご関係も深かったときいております。

藤沢・茅ヶ崎支部

金子 尚(中12回)

当支部は、藤沢・茅ヶ崎・鎌倉他地区にまたがり、広範開にわたっている。秦野・伊勢原地区のような地元密着型と異なり、なかなか会員間の交流がうまくいっているとは言えません。返信の回収もままならぬ状態です。現在会員数は、藤沢八三名・茅ヶ崎六八名・鎌倉他三八名計一八九名となっております。

南足柄支部

鈴木 正(中20回)

打開策の一つとして、世代の交替をして時代にあった感覚での運営も必要だと痛感しています。幸いにも近々、茅ヶ崎の内堀昌治(高3回)氏と相談して支部会を計画しています。これを契機に会の運営に明りが燈されることを期待しています。

次情報通信の発展しつつある今日、インターネットを通じての情報の検索・交換が可能な時代です。メールの交換から始めてみませんか。私のアドレス
tsunyo@muc.biglobe.jp

信望を集めてこられた水島範支部長が急逝されました。心から哀悼の意を表します。5月26日支部総会を開催、各種報告のあと、新支部長に梅本玄正氏(中15)を全員一致で選出、これからの活動に期待が寄せられます。

総会終了後は恒例の講演会が催され、昨年の中原茅秋氏(書道家高4)の「書の心」に続き、大庭進氏(南足柄市教育委員長高7)の「路傍の神と仏道祖神」と題しての講演があり古事記「黄泉の国」の巨石、今昔物語「熊野詣」にある道祖神の話から始まり、市内138基の道祖神が、写真とスライドで紹介され、日常生活の中では、ふと通り過ぎてしまう路傍の石仏に思いをしたとき、広い知識を得た楽しさを味わった一時でした。

秦中・秦高在職中の想い出

女生徒の威力

黒元 勇(数)

遠距離通勤の

想い出

岡本 弘(元校長)

秦高をはなれてから早や二十年が経過しました。昭和四十八年に横須賀大津高校から転任し、五十五年に厚木東高校へ異動するまでの七年間、思い出多い年でした。先ず四月に着任したのは良いのですが、住むべき家がありません。大津高校そばの教職員住宅から、適当な家が見つかるまで暫らく車で通うことにしました。横須賀―葉山―逗子―鎌倉―藤沢―茅ヶ崎―平塚―秦野と一時間半ばかりかかりましたが、六月まで二カ月ばかり無我夢中でした。中古の車でタイヤもすりへっている

て、任意保険もかけていませんでしたが、事故も起きませんでした。学校を五時に下校し、丁度南原付近にさしかかった時、私の車の前にいたダンプが砂利を積んでいたのですが、私の車のフロントガラスにしぶきがしきりにかかって来るので、多分砂利の水がはねかかるとかと思ったら、実は私の車がオーバーステアしていたのです。急いでガソリンスタンドに飛び込み、見てもらったらホースが切れていたのです。応急手当してもらって、横須賀に着いたら九時を廻っていました。その後、毎日曜日平塚、伊勢原、秦野と家を探してまわり、六月に何とか渋沢に適当な家が見つかりました。

先生方は秦高出身者が多く実直な方ばかりで、非常に校内が明るく、生徒も質実剛健、特にスポーツ方面は優秀でした。男女共学推進、五十周年記念式、校舎増築等まだまだ多くの思い出があり、語りつくせません。教頭として三年、校長として四年勤務しましたが、温厚な新山校長に次いで剛気な赤沢校長と、二代の校長に任せました。お二人共すでにお亡くなりになりました。

現在私は秦高近くの南矢名に住んでいます。これが私のついのすみかです。

昭和40年、私が赴任した当時、秦高は男子校でした。バシカラ調も残っていて50人を越す男だけの教室は殺風景なものでした。昭和47年頃、男女共学の話がもちあがり、何回も職員会議で議論した末、共学に踏み切ることになりました。

昭和49年4月、最初の女子100名が入学してきました。すると校内が急に華やかで、男子が生き生きしてきました。その年の生徒会長選挙には男子が数名名乗りを上げた。活発な選挙運動を展開しました。文化祭や体育祭の準備も、生徒の手でどんどん進められ、俺たちにまかせて先生は見えてくれ」と云わんばかりに活発になり、先生たちは放

課後遅くまで準備している生徒を追い返すのに苦労しました。先生たちが帰宅するのを待って学校に舞い戻り、ほとんど徹夜で準備する者もいて、女生徒が夜中におにぎりなどを差し入れに来たという話もありました。それまで男子だけの時には体育祭などいまいち盛り上がり欠け、生徒会役員もなり手が少なく委員会で推薦された候補者を信任投票で決めたのを思うとまるで嘘のような変わり様でした。以後、女子も年々増え、授業はもとより部活動も益々活発になり、放課後も活気に満ちた生徒たちで学校全体が沸き立つような感さえ受けるようになりました。

ある先生の言葉は今も覚えています。「電車の中でも本校の生徒はちがいますねえ。生き生きして自信とプライドが感じられますよ」。神代よ



り日の本は女ならでは夜の明けぬ国」とか云いますが、女生徒の威力をつくづく感じたものでした。

多くの感動と想い出をいただいた同窓生のみなさん、至らぬ私を温かく支えて下さった職員の方々に感謝いたしました。

我が母校の校歌「広畑が丘空はれて…」今も忘れず

小柴健吉(体育)

校歌を誇りを持って歌い、新人生には、桜の木の下で体育の授業の前に教えたことが昨日のように思い出します。

共に汗を流した同窓生の皆さんご健勝でご活躍のことと思えます。私もこの3月末に退職し三十六年間の教職に幕を閉じました。いつも生き生きとしたエネルギーが溢れ、活力のある高校生と、素晴らしい先輩、仲間恵まれ仕事

をさせていたでいたで、年齢を忘れていました。気がついたら、退職辞令を渡されたという心境です。改めて皆さんに感謝申し上げます。

私は昭和五十一年に秦野高校に着任して充実した十四年間を過ごさせていただき、その間の想い出は、キラキラと光る宝石のように貴重で、素晴らしいものがあります。

在職中に、創立六十周年記念行事が、校長であった二見修次先生を中心に進められて、秦野高校史が作られ、後世に残る立派な石碑ができ、式典に加わることが出来幸運でした。また、部室棟の改築もあり、集会室を畳敷きの部屋にして合宿が出来るようにしたりし、込山英雄先生を中心とした体育科は、ファミリーのように良くまとまり、校運営に参画した。体育行事

では、体育祭に全校で浴衣を着て民謡を踊り、授業では練り返し練習したことや、伝統のマラソン大会も、いやだいやだと言いつつも、記録向上を目指し夢中になって走り込み、雨の中の大会など当時は苦しんでも今となっては、いい思い出となっている。

部活動では、女子バレーの顧問で関東大会出場も素晴らしい青春の思い出である。やはり苦しみの中に喜びもある。同窓生が、チャレンジ精神と秦高魂を忘れず「祖国になはむ我がが誓ひ」を実現し、活躍する事を祈念している。

畑に囲まれていた頃

遠藤 清(理)

私が赴任した昭和四十四年頃秦高周辺は、広畑が丘「そのもので、将に自然の真っ直中でした。間もなく開発の波

が押し寄せ、毎日植音が響いたと思つたらアパートが建ち始め、やがて下大槻団地が出現した。また学校から大根駅(現東海大前駅)に至る周辺の変化も甚だしい。当時は開発途上の造成地が延々と続き秦高生が近道をするので雑草の中に一筋の「獣道」なる通路ができていた。が、ここ

も間もなく住宅が建ち並び、生徒は舗装された道路を通ることになる。今でも電車を通る折、歩いている秦高生を見る度に当時の光景を思い出し、懐かしく思う。

一方、校内での変化も著しく、男子校だった秦高も其学になり、学区再編によって平塚地区と分離され、地元秦高に対する期待が高まって職員も意欲的に取り組んだ。

また学級増で校舎が増築される前では、現在の職員室がある棟と視聴覚室がある棟は

無く、広場になっていて遠足の時などはバスが十数台位入っても余裕があるほどだった。片や伝統的に守られてきたものや行事も多く、中でも校内一万余米競走は警察署の協力で長年周辺道路を使用して続けられた。しかし近年は交通事情により場所が変更になっていると聞いている。

体育祭では長く伝統的に受け継がれてきた種目の踊り、仮想行列、青年体操等があり、地元や保護者の方々が期待して見物にみえていた。このような行事では生徒の自主的な企画、運営で、目を張るような成果を修めた。これも伝統的に受け継いできた秦高生魂でこそその結果でした。

変化有り、古き良きもの有りの中で良い同僚、生徒に恵まれて教職生活の三分の二程の二十一年もお世話になった秦高は生涯心に残る存在です。

広畑が丘 空はれて 秦中・秦高に想う

秦(中)高時代を想う

喜多 実 (高3回)

来年の古希を控え、70年の半生の想いは、ここまでよく生きてきたという感慨ともう

しばらく元気ではないという細やかなのぞみであるのか。その中であって、僅か6年の秦(中)高時代は最も純に生きた年月のように思われる。

東京で中学入学4日後戦災にあい、一家で母の故郷伊勢原に移り転校。これが秦(中)高との出会いであった。昭和20年終戦の年である。

それから6年、戦後の混乱と荒廢の真只中であって多感な青春を送るには実に貧しかった。しかし楽しかった。

勤労奉仕で初めて握った麦刈りの鎌。大根駅から学校まで足駄で通った田舎路、硬球の縫目の補修に明け暮れた補欠だった野球部、いたずらの写真部、真面目だった生徒会活動や三校英語劇祭、汗をかいた報国造林作業、そして良き師良き友、溢れ出る思い出。社会人としての基礎を仕込んでもらったと云うべきか。

以来50年、年金生活も10年悠々自適もままならないが、ボランティアアガイドの一員として仏像に対面する機会の多い今日この頃、そろそろ空なる境地を目指すでしょうか。

『母校』人生の礎

水上公之 (高13回)

昭和三十六年に卒業し、何年を経過した頃か定かでないが「秦高には容易には入れない」「成績が余程良くないと」こんな話が耳に入ってくるようになった。何時となく、母校がそう言われるようになった。自身の入学、在学時を振り返り、時の流れを強く感じたところである。

秦高在校の三年間は、あと一年余で還暦を迎えるに至るこれまでの人生にとって、極く短期間ではあったが、大きな礎となったことに違いはな

した。

三十年前の高校時代を思い出そうとしても不思議と勉強に關連したことは多く思い出しません。

その反面、所属していた陸上競技部でのことは鮮明に思い出します。毎週土曜日に行われたタイムトライアル。春から秋は大会の連続、秋を迎えると稲穂の実った中を走った校内一万メートル。冬には弘法山での練習。等々思い出はつきません。今でも当時一緒に汗を流した同僚や先輩、後輩の顔が当時のまま思い出されます。

クラブ活動での成績は特に残すことが出来ませんでした。が、秦高で過ごした三年間で得たものは実に多く、現在の自分にとって大きなプラスになったと思います。今後も秦高生の更なる活躍を期待しています。

印象残る陸上部

大谷祥司 (高23回)

秦高を卒業して早いもので三十年もの月日が過ぎていま

風と山と

古郡謙一（高33回）

昔から「秦高は文武両道の教育方針だ」と聞いていたが、入学してみると英語が週五時間、体育も週五時間あったと思う。特に10キロマラソンは思い出深い。大学受験を控え、体力的に弱っている生徒には苦痛であった筈、途中でやめたい、歩きたい等の気持ちを抑えて完走した人が殆んどだったと思う。精神的にも肉体的にも鍛えられたのではなかるうか。今となっては良い体験をさせてもらったと思う。

夏休み明けから始まるマラソン大会の練習は週三、四回あり、45分間で5、6キロ走る。息も切れ、汗も引ききらないうちに次の机上の授業が始まる。勉強に集中出来ずにポーツとしたりもしたが、そんな

時、三階の窓から流れ込んでくる涼しい風がほてった体を冷やしてくれ、又晴れた日には窓から顔を出すと富士山が真正面に見える。気持ちがいっ気に晴れ上がったのを感じています。

きつと、昔も今も秦高から見える富士山、校舎に入ってくる風は同じ、先輩の方々も後輩の皆様もこの風景を思い起して下さい。気持ちがなごむことでしょう。

高校時代を振り返って

落 隆久（高43回）

早いもので高校を卒業してから十年がたちました。自分の高校時代を振り返ってみると、秦高で過ごした三年間というのは、多くの貴重なことを経験することができたものに、とても充実したものでした。

寄稿 「宮川政次先生を偲ぶ」

父の秦中の頃

宮川 宏子

父は、県立平塚高女時代と同様、秦中にも箱根宮の下の自宅から通った。

戦争が激しくなると英語は敵国語として禁止され、数学を教える破目になった。やがて学徒動員で横浜市釜利谷の海軍技術廠にいった時のことはよく話してくれた。ろくな食糧もなく生徒は下痢をくり返していた。工場でも寮でも昼夜空襲の恐怖におびえ、栄養と睡眠不足で病気がちになった。やがて工場で終戦を迎え学校にもどった。

宮川先生と出会うつて

福岡 稔

私の新任校は箱根明星中です。その校長先生が宮川政次先生でした。総数11名の職員の中の宮川先生は、特に「おやじ」そのものでした。ある時、先生ご夫妻で北海道旅行をされたとき、お嬢さん二人きりの家庭に、10日間も「宿直？」をさせられました。その心の広さは、私の支えであり、お手本となって参りました。

現在、私は高等学校で教員をしていますが、一人でも多くの生徒に、今後の人生の支えとなることを残したいと思ひ日々頑張っております。

（元 箱根明星中学校教諭）

創部以来の大世帯に嬉しい悲鳴

吹奏楽部 顧問 田中正博

同窓会の皆様にはいつも吹奏楽部をご支援いただきまして、部員共々御礼申し上げます。この三月には、第21回定期演奏会を、伊勢原市民文化会館大ホールで盛況にて行うことができました。

広陵第28号では「最近はどこも入部者が少ない」と書きましましたが、一転して昨年は



2001年3月31日 伊勢原市民文化会館ホール

こんにちは

33名、今年はその名の新生生が入部しました。現在3年が13名、2年30名、1年29名の合計72名の大世帯となり、私が本校に赴任18年間で最大、それ以前を

部46年間で最大の人数になったのではないかと考えられます。(男子数は合計9名と少ないのが少々残念ではありますが)。

ただ、人数が増えたと手離しで喜んでばかりはいられないのです。と言いますのは、吹奏楽部は部員一人一人に楽器が必要です(打楽器以外)



3年生15名、2年生13名、1

を告知させていただきます。現在

が、全員が自分の楽器を持つていては、決して自費での楽器購入を強く勧めることも望ましいことではないので、頭の痛いところで。部の有り金をはたいて五月に漸くファゴットを一台数十万円で購入できたという有様で

目標へ向かって

サッカー部 顧問 中村元彦

す。嘱託員としてOBの大津裕史君はじめ十余名の卒業生諸君に各バートのトレーナーをボランティアにてお願いしております。今後皆様のご支援を宜しくお願い致します。

年19名、マネージャー4名計51名で活動しています。

サッカーでは関東大会、高校総体への出場が県で2校、全国高校選手権への出場が県

で1校という狭き門となっております。厳しい状況ではありますが、我がサッカー部では県外大会への出場を目標に日々練習に励んでいます。

47名の選手がグラウンドの狭いスペースで一斉に練習するわけですから決して良い環

境の中での練習とはいえませんが、短い練習の中で、練習内容を工夫し、集中して密度の濃い練習を行えるよう努力しています。

そんな練習の成果もあり、ここ数年は常に県ベスト16を維持し、県立高校の中ではトップクラスの結果を残しています。しかし、どうしてもベスト8の壁を突破することができません。今年度も4月に行われました関東大会予選でもベスト16で敗れてしまいました。

ですが、今年度残る二つの大会、現在6回戦(ベスト14)まで進んでおります。高校総体予選又は7月から行われる高校選手権予選では必ずベスト8を達成し、目標である県外大会出場へ向けて突き進みたいと思っております。温かいご支援、お願い致します。

母校から

男子バスケットボール部

顧問 永田雅嗣郎

現在、部員は 3年生13名、2年生7名、1年生5名という状況の中で、日々練習に励みがんばっております。生徒達は、過去3回の関東大会出場という先輩方の実績に追いつけるよう努力を重ねております。顧問としてもなんとか生徒達の目標が達成できるよう練習、合宿、遠征とがんばっております。

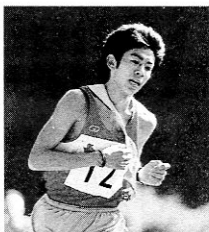
今年のチームは、コソコソと練習に励み、この五月頃からだいぶ力がついてきたと感じています。しかしながら3年生は、引退まであと高校総体を残すだけとなりました。関東県予選では、県ベスト20に終わり、なんとか最後の大会

で力を出しきってほしいと思っております。また、バスケットボールを通じて、学ぶことが教多くあったことでしょう。その中でも、自分の為だけに努力をするのではなく、チームの為に努力をするのだという気持ちは、おそらく他の学校には負けないと思えます。仲間を思いやる気持ちは、将来どんな所に出してもほずかしくなく、また役に立つことと思えます。毎年、チームを持つ中で色々なドラマがありますが、あと一つの大会で、またドラマを一つ増やしていきたいと思っております。



全国大会に3名出場

陸上競技部 顧問 越水 清



全国長距離大会 勝田誠選手

平成十二年度も部員一丸となつて、頑張りました。五月の県総体で男子五〇〇mで三年犬塚裕介が二位、女子三〇〇mでは三年萩原梨咲が優勝、女子砲丸投に三年猪俣あゆみが六位に入賞、六月に東京で行われた関東大会に出場した。関東大会では萩原梨咲が途中、転倒したものの良く五位に入賞し、八月二日岐阜県で開催された全国総体に駒を進めた。

また、八月中旬に同じ岐阜県で行われた全国長距離大会

に三年勝田誠、犬塚裕介が男子一〇〇〇m、萩原梨咲が女子五〇〇mに出場、萩原梨咲が九位と健闘した。

秋の新人戦県大会では、一年石井千賀子が四〇〇m七位、二年植田雄介が一〇〇m七位、二年古川笑里菜が三〇〇mで八位、男子四×一〇〇mリレーで六位に入賞した。

十一月には丹沢湖で県駅伝大会が開催された。優勝をねらっていた女子チームは大いに力を発揮したが惜しくも準優勝となった。しかしその健闘ぶりが高く評価された。男子チームも全力を出しきり十六位と頑張った。女子は茨城県で行われた関東大会に出場し26位であった。

加えて萩原梨咲は県チームの代表として横浜国際女子駅伝をはじめ各駅伝で活躍し関係者の注目を浴びた。



表紙スケッチ

「下校の時刻」

横溝英一(中20回)

バスが来た。

少し早いけど、今日はもう家に帰ろう。あとはまた明日だ。

家、帰る、明日…。

どれも、なんと快い言葉か。

いつまでも持っていた言葉。

あの頃のさりげないけれど大切な風景。

寸描

母校2000年度

進学カルテ

進路指導部長

片岡世喜

二〇〇一年、二世紀に入り、最初の年で。卒業生の進路状況はどのようなことが見られるのでしょうか。

二〇〇一年のセンター試験への志願者は、昨年より増加の二四七名でした。

国公立大学には現役で、東大、一橋、東工大にそれぞれ一名ずつ、横国大、電気通信大等に十七名合格しました。

浪人生も、千葉大、横浜市立大等に七名合格しました。私立四年制大学にも、例年と同じく、二二一名合格しました。

短大については、全国的に減少傾向にあり、昨年より減り、二七名でした。専修、各種学校への進学は増え、三二一名でした。

推薦入試については、指定校推薦の依頼校が大学四六校一四八名、短大三〇校、九二名で、合格者は、大学五五名短大十二名でした。

一般推薦では、大学へ五九名受験、二五名合格し、短大へ五名受験、四名合格しました。

就職については、今年も依然と厳しい状況は変わっていません。その中で民間会社へ二名、地方公務員へ一名就職しました。

以上が今年度の卒業生の進路状況ですが、社会の変化はいやおうなく生徒の進路に影響を与えているようです。それゆえに、自分をよく見つけることがうかがえます。

また、人生観、職業観を考へることで、進路選択の多様化の中で、より実質的な選択もみられてきます。

資格、免許取得を考えた、教育、看護、薬学、医療があげられるでしょうか。

社会の変化、不況の影響で国立大学へ入学が難しくな

つてもいます。少子化の影響で、中堅大学に入り易くなつてきているようです。

それに加え、入試方法の多様化(推薦、AO、一般人試)、従来の学部、学科にとられない学科の新設など、選択肢が増えています。

いろいろな可能性が考えられるので、より早く、進路希望を明確にし、その実現のために、安易なところで妥協せず、より厳しく努力するこ

とが必要になると思われます。我々も、なお一層、一、二年生から、多様な進路選択に対応できるように指導していかなくてはならないと思うところです。

2000年度卒業生の進路状況

	文系		理系		学年全体	
	男子	女子	男子	女子	男子	女子
4年制大学	51	88	71	28	122	116
短期大学	0	25	0	2	0	27
専修学校 各種学校	4	18	3	6	7	24
就職	1	1	0	1	1	2
進学準備	26	19	40	9	66	28
卒業生徒数	82	151	114	46	196	197

同窓会の皆さまも、ますますご活躍していただき、また、後輩を温かく見守り、温かいご声援をお願いしまして進路状況報告をさせていただきます。

2000年度 主な大学・短大合格者延べ数

大学名		現	浪	大学名		現	浪	大学名		現	浪
国公立大学(4年)											
北海道教育大	大	1		芝浦工業大	大	6	1	フェリス学院大	大	4	
宮城教育大	大	1		順天堂大	大	1		文化女子大	大	2	
宇都宮大	大	1		松蔭女子大	大	2		文教女子大	大	3	
茨城大	大	2		上智大	大	7	1	文京女子大	大	2	
千叶大	大		1	尚美学園大	大	1		法政大	大	29	10
横滨国立大	大	3	3	昭和音楽大	大	2		星薬科大	大	3	
電気通信大	大	1		昭和和和	大	11	1	武蔵工業大	大	2	
東京工業大	大	1		成蹊大	大	2	4	武蔵野女子大	大	12	6
東京工業大	大	1		成城大	大	8		武蔵野美術大	大		2
東京農工大	大	1		専修大	大	30	13	明治学院大	大	29	5
東京工科大学	大	1		創価大	大		2	明治薬科大	大	25	22
一橋大	大	1	1	大拓大	大	1		明治薬科大	大	1	1
新潟大	大	1		多摩大	大	1		明星大	大	2	1
静岡大	大	1	1	玉川大	大	6	1	横浜商科大	大	1	
愛媛大	大	1	1	多摩大	大	1		立教大	大	12	5
埼玉立大	大	1		中央大	大	42	20	立教大	大	1	
横浜国立大	大	1		帝京大	大	1		和光大	大	1	
京都立大	大	1		帝京大	大	10	2	早稲田大	大	13	3
静岡立大	大	1	2	桐蔭大	大	1		短期大学			
私立大学(4年)											
青山学院大	大	23	15	東京海大	大	29	7	神奈川県立栄養	大	1	
麻布大	大	2	2	東京家政大	大	2	1	横浜市立看護短大	大		1
亜細亜大	大	1	1	東京家政学院大	大	3		青山学院女子短大	大	9	
桜美大	大	1	1	東京家政学院大	大	3		和泉短大	大	2	
大妻女子大	大	5	1	東京経済大	大	3		大妻女子短大	大	1	
学習院大	大	4	2	東京工科大	大	2		鎌倉女子短大	大	1	
学習院女子大	大	1		東京工芸大	大	5	1	駒沢女子短大	大	3	
神奈川工科大学	大	33	14	東京女子医科大	大	1		相模女子短大	大	2	
神奈川工科大学	大	7		東京造形大	大	1	1	上智短大	大	1	
関西学院大	大	2		東京電機大	大	1	2	湘北短大	大	3	
関西学院大	大	8	1	東京農業大	大	5	1	昭和音楽短大	大	1	
北九州大	大	9	4	東京農薬大	大	2		昭和女子短大	大	2	
立海女子大	大	1		東京理科大学	大	13	2	昭和医療短大	大	2	
杏林大	大	4	2	同志社大	大	3		洗足学園短大	大	2	
慶應塾大	大	3	1	桐朋大	大		1	玉川学園女子短大	大	1	
工学部	大	9	2	東洋大	大	6	1	鶴見女子短大	大	1	
国際基督教大	大	2	2	英和学院大	大	4	1	東海大医療技術	大	1	
国際武道大	大	1		獨協大	大	1	1	東京家政短大	大	2	
国士舘大	大	8		新潟医療福祉大	大	1		日本短大	大		1
駒澤女子大	大	5	2	日本獣医畜産大	大	14	15	明治短大	大	1	
相模女子大	大	2		日本女子体育大	大	2		立教女子短大	大	1	
産能女子大	大	3		日本女子福社大	大	6		国公立大学			
実践女子大	大	1		広島国際大	大	1		私立大学			
										18	12
										537	186
										37	2
										592	200

同期会だより

「みなせ塾」で生涯学習

高四回 露木 省三

現在「みなせ塾」で毎月一回相互研鑽を行なっている。

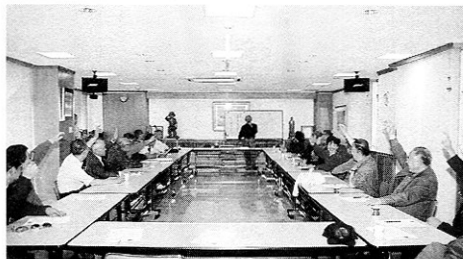
「みなせ塾」は、広四会（高四期）の有志が発起人となり平成十年四月に開講した。

設立の趣旨は、実りある豊かな人生を送るために相互研鑽を狙いとし、生涯学習の場として、其学の精神を生かし、一般にも門戸を開放して多少でも地域分化の向上に役立てば、との思いが込められている。塾は月一回、第四土曜日に秦野文化ホールで開催している。

講師には、メンバー相互がなり、テーマは講師自身が自由に決定し、最後に、質疑応答を含め、出席者との自由な意見交換が行われている。

塾への参加は自由で無料である。

講義終了後は、毎回懇親会が行われ、当日の講義に関する議論や、ゴルフ談義、カラ



オケ等で大いに盛り上がる。

発足以来三年を経過したが

今までのテーマは、歴史、教育、経済、芸術、国際問題等多岐にわたり、これに年一、二回の野外学習を実施している。参加者は平均三十名前後、

テーマによっては百名に近い参加をみたことがある。

塾の雰囲気は極めて和やかであるが、講師はそれなりの準備と緊張感で臨み、出席者は未知の分野の見聞を広め、更に視野を広げるといふ開塾の趣旨は生かされてきたと思

っている。

「みなせ塾」事務局

秦野文化ホール内・矢後明生 (TEL 0463-8316655)

*

古希記念・思い出の記録集

高一回 宅見 義平

われわれの同期会は、旧中学二十回・高校一回生のことから会名を、「二〇一回」と名付けている。

昨二〇〇年の世紀末に古

希の齢を刻んだ。以前から、特に、還暦を迎えた十年前、自分達が歩んだ「広畑が丘」での思い出を記録に残そうと当時の文芸部員、なかでも美

術の名物先生から薫陶を受けた数名が中心になり話し合ったが、実現せず十年経ってしまった。

古希を記念しての同期会が

秦野地区の当番で企画されたのを絶好機と、日時決定の幹事会直後、同期会予告通知を兼ねて原稿募集を広告した。

なにしろ、寄稿者まかせの

ぶっつけ本番で心配であったが、二十数名から貴重な原稿が寄せられて、ほとと胸をなでおろした。かねて依頼していた編集委員にもそれぞれ執筆してもらい、表紙も委員に描いてもらうことができた。

言いだしつべの小生が、ワープロをたたき「版」をつくり、印刷までこぎつけた。

二〇〇年十月十五日の同期会の席で、参寥君に配った。

巻頭は、恩師杉山長風先生の短歌で飾って戴いた。冊子を手にした同期生は、口々に



2000年10月15日 箱根湯本 ホテル南風荘

寄稿者の記憶力の非凡さを褒め讃えていた。内容は、援農動員、箱根の報国寮での合宿造林作業、横浜、釜利谷の海軍技術工廠での勤労動員、また、そこで終戦を迎えたこと。

戦後、県史学駅伝大会、関東大会へ勝ち進んだこと、演劇で県大会で活躍したことなど。その後、増刷して同期生全員に送付した。

平素、疎遠がちな各氏と連絡がとれたことが、最大の収穫だった。

特別寄稿

少国民の青春時代

山中恒氏



山中恒氏

私たちの高校二期生は、日中戦争下の尋常小学校へ入学し、昭和十九年三月国民学校初等科を修了し、四月、神奈川県立秦野中学校へ入学し、昭和二十五年三月神奈川県立秦野高等学校を卒業した。つまり入り口と出口の看板が違った世代である。

その間、中二のときに大東亜戦争（太平洋戦争）の敗戦という歴史的大事件に遭遇した。そこをターニング・ポイントとして価値観がまさに一八〇度転換したのである。それ以前は、実にさまざま

い軍国主義教育をたたくこまれた。教える先生も恐ろしかった。苦虫を噛みつぶしたような顔をして、生徒にむちゃくちゃ暴力をふるって、生徒が笑顔を見せようものなら、「男なら歯を見せるな」と、わけもなく生徒をぶん殴った先生もいた。ウツカリ先生のニックネームをいっているのを先生に聞かれ、顔の造作が変わるほどに鉄拳制裁を加えられた生徒もいた。寒い季節、ポケットに手をいれたと平手打ちを食わせる先生もいた。恐ろしいのは先生ばかりではない。上級生も怖かった。朝、挨拶（軍隊の拳手の敬礼）をしそこなったのをとがめて、あとで呼び出しをかけた

てなくる人もいた。そして糊のきいた浴衣みたいにしやちこ張って、びりびりしながら受ける授業の内容は戦う神の国日本の教育だった。当時の国定中等教科書修身一の冒頭には「天壤無窮の神勅・軍人勅諭・教育ニ関スル勅語・青少年学徒ニ賜ハリタル勅語・米國及英國に対スる宣戰の詔書」列挙されていた。「われらは今、中等学校の生徒になった。新しい学校に教えるを受ける喜び。ほろび初めた桜の花にも、われらは皇国日本に生まれた誇りを心から感じないはいられない。勤王の志士佐久良東雄先生は、さくらさくうまし御国に生れいでてかくたのしむほうれしからずや

びの道にいそしまなればならぬ」(中等修身一・一、皇国の使命) これを学年全員が講堂で浅井校長の講義で受けた。国文(国語)一は、「山部宿禰赤人の富士の山を望める歌一首並びに短歌」。漢文一は「一皇国」で「豊葦原千五百秋之瑞穂國是吾子孫可王之地也」義之君臣情兼父子/日出處天子致書日没處天子無恙……」といった類のものばかりであった。そういう教科書での授業も一学期くらいのもので、あとは農家への勤労作業やら暗渠排水の掘削作業であった。二年生になると、新しい国定教科書の頒布もあったが、通常の授業は一切停止されて通年動員をかけられた。すでに上級生たちは横浜の軍需工場へ勤務させられていた。そして、その年の八月十五

日、敗戦を迎える。その一月前平塚市は米軍機B29の絨毯爆撃で焼かれた。そのとき教科書を消した者に差別があつたことを忘れない者もいる。そして、ついこの間まで、生徒を兵士にするために厳しく錬成した教師たちがニコニコとにわか仕立ての平和民主主義教師に化けたのである。

プロフィール

やまなか・ひさし 児童説物作家。一九三一年、北海道生まれ。五五年、早稲田大学卒。在学中に発表した『赤毛のポチ』で児童文学者協会新人賞を受賞。主な作品に『子どものための太平洋戦争』『ボクラ少国民』シリーズ。『山中恒児童よみもの選集』九九年、妹尾河童著『少年日』の史実誤認を批判した『間違いだらけの少年日』(山中典子との共著)を出版。

春の異動

次の先生方が四月の異動で
転退職されました。長い間、
本校の教育にご尽力ください
ありがとうございました。

安藤 彬 (退職)

田中 洋一 (退職)

岩田 新一 (平塚養)

佐藤 剛 (栗原)

高橋 悟 (体育センター)

小澤 芳弘 (城東)

小泉 誠治 (平塚工)

石川 聡 (大秦野)

中川 美香 (伊志田)

三部久美子 (南が丘)

片野美智子 (鶴嶺)

大湖田俊一 (足柄)

野澤レイ子 (二宮)

物故者

謹んでお悔やみ申し上げます。

【客員】

塚越 正佳 (H11)

福地 喜雄 (H12)

柏木 博文 (H11)
貴田 盛彦 (H10)
藤井 基精 (H12)

中18古谷利夫 高7添田孝夫
中19吉田昭太郎 高8戸田義弘
中20石原昭三 高9奥津 勇

中20近藤 弘 高9北村忠男
中21小泉 徹 高11石塚敏篤
高3小出康雄 高12曾我紀雄
高4新倉 実 高12高橋真一

編集後記

二十一世紀の初頭にあたり
「広陵30号」が発行出来まし
た事、大変嬉しく思います。
しかし残念な事ですが、毎
回の編集会議に出席され、温

中1島村 魏
中3佐藤安彦
中4小沢成徳

中14相原 操
中14神谷欣吾
中14柿沼道悦

高4阿部信夫 高15加藤 誠
高4梶山靖夫 高16山田国彦
高4吉田充夫 高17中尾敏春

今号では特別寄稿として、
著名な児童読み物作家山中恒
氏(高2回)にお願いしまし
た。戦争は人を変えます。ご
意見ご感想をお寄せ下さい。
これからも会員のご協力を
得て頑張ります。(青木)

中4中村 益
中5石井喜三郎
中5水島 範

中14清水 進
中14菅沼 正
中14須田幸男

高7石田幸一 高51天野敦仁
高6相原秀年 高34熊坂文孝

卒業時に納入することになっ
ております。この制度の発足
以前の卒業生の方でまだ未納
の方は、申し訳ありませんが

中5太田公彦
中5増永義徳

中14杉山成一
中14花島正明
中15柏木通夫

平成八年から五年目にあた
る今年七月下旬に名簿が発行
予定になっています。収録者
は、卒業生、現・旧職員およ
そ二万一千七百名にもほり

増やし、えんじ色の表紙にな
っています。
予約されなかった会員でお

中6須藤東陽
中6瀬戸憲治

中16小泉昭二
中16瀬戸久雄
中16中野 寿

中17笹島俊夫
中18小笠原精一
中18富田菊雄

中12関野栄治
中18長谷川武久

中12唐津祥也
中12畑 英二

中17白井越嶺
中17篠島俊夫
中18小笠原精一

中17笹島俊夫
中18小笠原精一
中18富田菊雄

中12関野栄治
中18長谷川武久

中12関野栄治
中18長谷川武久

中17笹島俊夫
中18小笠原精一
中18富田菊雄

中17笹島俊夫
中18小笠原精一
中18富田菊雄

中12関野栄治
中18長谷川武久

会員名簿発刊について

平成八年から五年目にあ
る今年七月下旬に名簿が発
行予定になっています。収録
者は、卒業生、現・旧職員
およそ二万一千七百名にも
ほり増やし、えんじ色の表
紙になっています。

〒257-0004
秦野市下大槻二二三番地 県立秦野高等学校内

秦野高校同窓会

電話 〇四六三(七)一四三三 振替口座 〇〇二〇八二三六八九

発行責任者 柳山(朗高1) 青木利之(高4)

須山(孝中20) 古部三郎(高7)

榎本圭治(高2) 小泉広澄(高17)

永山孔昭(高6) 大川 要(高17)

求めの方は、母校事務局にお
申し込み下さい。価格は四五
〇〇円(送料共)です。

この名簿は、同窓会承認の
ものです。多くの会員の皆様
に広くご活用下さる様お願い
申し上げます。

◆終身会費について
終身会費の制度になってか
ら八年になります。在校生は
卒業時に納入することになっ
ております。この制度の発足
以前の卒業生の方でまだ未納
の方は、申し訳ありませんが